

ソニー

「Beyond Definition」をテーマに、次世代放送を見据えた最新製品群及び、高画質かつ高効率な映像制作ソリューションを幅広く提案。

4K 映像やハイダイナミックレンジ (HDR) の制作システム、8K 3 板式カメラシステム『UHC-8300』、映画制作用のCineAlta カメラ『VENICE』などの最新カメラシステムの展示に加えて、展示会への出展としては最大となる 440 インチサイズの Crystal LED ディスプレイシステム (8K×4K 構成)を通して、業界初となる 8K 120p 映像を上映するなど、これまでにない高画質と没入感による新たな領域の映像体験を提案した。また、IP ベースのライブソリューションやクラウドを活用したシステムソリューション、映像アーカイブソリューションの提案など、大容量の映像データを効率的に扱える制作・配信ワークフローの紹介も行われた。

■ 4K HDR 映像制作に対応したXDCAM

メモリーカムコーダー商品群を展開

NAB 2018 では、映像制作者のニーズに応える最新のカメラシステムを紹介。初展示となる4K60p 収録とHDR に対応したXDCAM™メモリーカムコーダー『PXW-Z280』『PXW-Z190』と XDCAMメモリーカムコーダー『FS5 II』に加えて、新開発36×24mmフルフレームセンサーを搭載した映画制作用CineAlta

カメラの最上位機種『VENICE』などを展示した。



『PXW-Z280』

■ 4K/8K/HDR の高付加価値映像でライブ制作を実現するシステムとワークフロー、さらに進化したHDR 映像制作ワークフロー “SR Live for HDR”

ソニーは、スポーツ中継や音楽ライブなどのライブ映像制作領域において、高画質な映像を効率的に制作するソリューション “SR Live for HDR” を推進している。カメラ性能を最大限に生かすシンプルなシステム構成で、4K HDR/HD HDR/HD SDR の映像を同時に制作することが可能となる。HDR 制作における欠かせないソリューションとして、国内外での制作事例が広がっている。

ブースでは S-Log3/BT.2020 に加え、SR Live for HDR ワークフローの進化として、撮



IP Live プロダクションシステム展示コーナー

影段階からHLG でのエンドツーエンド (End to end) 制作を可能とする HLG_Live モードと、マスターセットアップユニット (MSU) によるマルチコントロールのワークフローを紹介。これにより、日本国内での4K HDR 制作だけでなく、米国市場において期待が高いHD HDR (1080p) 制作を、効率よく実現することが可能となる。

■ IP Live プロダクションシステムを中心として拡充するライブソリューション

映像信号 (音声、メタデータ、同期信号、制御) などをリアルタイムにIP 伝送するIP Live プロダクションシステムは、4K・8K のIP 伝送に対応するネットワーク・メディア・インターフェース (NMI) とともに、業界標準規格 SMPTE ST 2110 への対応を積極的に推進。ブースでは、遠隔地の機器をIP で繋ぎ映像制作するリモートインテグレーション (REMI : REMote Integration) のデモンストレーションを実施した。また、ソニーブースをコントロールルーム、アトランタをデータセンターに見立て、ソニーブースのカメラやスイッチャー・サーバーの操作パネルから、アトランタに設置したプロセッサ類を操作する。ソニーは、IP でライブ制作の効率化を追求するとともに、幅広いシステム選択肢をユーザーに提供するため、4K 映像データを1 本の同軸ケーブルで伝送できる映像インターフェース 12G-SDI 対応製品も拡充する。

■ 効率的な映像アーカイブソリューションの提案

光ディスクの技術と信頼性を継承したオプティカルディスク・アーカイブの第2世代を中心に、映像の大容量化やテープ資産のファイル化に備えた様々な提案を行う。IoT や自動運転など世の中のデータは加速度的に増えており、大量のデータ保存が低消費電力で可能な光ディスクに注目が集まっている。ソニーは、オプティカルディスク・アーカイブに対応した大規模ライブラリ装置をアライアンスパート



「HDC-4300」などを紹介したスタジオカメラコーナー

ナーとともに開発する。最小構成は約3PB で、拡張ユニットを連結することにより最大容量約27PB に対応する。

また、三菱ケミカルメディア株式会社と、オプティカルディスク・アーカイブカートリッジの製造・販売におけるライセンス契約を今年4 月に締結した。アーカイブ需要に向けて、メディアの安定的供給と一層の発展を目指す。

■ クラウドを活用したソフトウェアベースのメディアソリューション

欧米で展開しているクラウドを活用したメディア業界向けソフトウェアベースのソリューションを多数展示。報道制作向けクラウドサービス “XDCAM air”、ネットワーク制作システム “Media Backbone Hive”、コンテンツマネジメントシステム “Media Backbone NavigatorX”、テープ資産向けデジタイズサービス “Memnon” などにより、クラウド時代の効率的な制作ワークフローを提案する。

■ 進化を続けるディスプレイテクノロジー『BVM-X300』、『PVM-X550』

ファームウェアアップデートにより、4K 有機EL マスターモニター『BVM-X300』と、業務用4K 有機EL モニター『PVM-X550』に、フレキシブルエリアマーカ対応やタイムコード表示、入力設定一括切り替えなど、4K/HDR 制作の運用性を高める機能が追加された。『PVM-X550』は、高輝度モードにも対応する。

■ 大迫力の映像体験を提供する8K×4K 構成のCrystal LED ディスプレイシステム

展示会への出展としては最大サイズ及び最高解像度となる、横約9.7m×縦約5.4m (440 インチ)、8K×4K 構成の Crystal LED ディスプレイシステムにて、8K 3 板式カメラシステム『UHC-8300』で撮影した業界初となる8K 120p のコンテンツや、『VENICE』で撮影した新作デモリールなどを上映し、これまでにない高画質と没入感あふれる映像を届けた。

パナソニック

放送・映像制作ソリューションからスタジオ向けスポーツ映像ソリューションまで、多彩な映像ソリューションを提案。

ブースでは、「放送局・ライブイベント制作向けゾーン」「映画・ドラマ・番組制作向けゾーン」「Web・会議室・文教・イベント向けゾーン」「スポーツ制作向けゾーン」の4つのソリューション提案に加え、「MoIP」や「HDR」などのコア技術を紹介するゾーンによる展示を行った。

「放送局・ライブイベント制作向けゾーン」では、新開発の大判4.4Kセンサーを搭載し、2/3 型レンズマウント対応の高画質な4Kスタジオカメラ「AK-UC4000」シリーズ



4Kスタジオカメラ「AK-UC4000」シリーズ(左)／カメラコントロールユニット(CCU)「AK-UCU600」シリーズ(右)

や、新たにライブ出力対応を実現した「4Kシネマカメラ VARICAM LT」を展示。加えて、P2 Cast やP2 Bridgeによる「P2ワークフロー」、参考出展として「MoIPによるIPネットワークソリューション」を紹介した。「映画・ドラマ・番組制作向けゾーン」では、VARICAM シリーズをはじめ、新たにALL-Intra、RAW 出力に対応した「EVA 2.0」、そしてCinema4K/60p 動画記録が可能な「ミラーレス一眼カメラ LUMIX DC-GH5S」と、用途にあわせて幅広く選べるシネマカメララインアップを紹介。ダークセットコーナーではVARICAM、EVA1/ WonderLookPRO オンセットグレーディングデモなど、実際の運用にあわせたデモンストレーション展示を行った。



NDI HX対応HDインテグレートドカメラ「AW-HN130K/ AW-HN130W」(左)／NDI HX対応4Kインテグレートドカメラ「AW-UN70K/ AW-UN70W」(中)／NDI HX対応HDインテグレートドカメラ「AW-HN70HK/ AW-HN70HW」(右)

「Web・会議室・文教・イベント向けゾーン」では、PTZ カメラを中心にしたソリューションを展示。LAN ケーブル1 本で映像・音声や制御信号などを伝送できるNewTek社のNDI HXに対応した新商品の「PTZカメラ AW-HN130W/K、AW-UN70W/K、AW-HN70HW/HK」と「ライブプロダクションセンター AV-HLC100」を紹介。また、複数のPTZ カメラをPC で一括コントロールできるようにする「PTZ Control Center」(無償ソフトウェア)やネットワーク上のリモートカメラをUSB カメラとして使用できるようにする「PTZ Virtual USB Driver」(無償ソフトウェア)も展示した。「スポーツ制作向けゾーン」では、スタジアムを少人数で撮影できる「8K ROI (Region of Interest= 切り出し) 技術」を今回初めて展示した。



ライブプロダクションセンター「AV-HLC100」

エムアイティー

米国における同社製品の販売代理店であるMarshall ブースにて出展。製造元のモガミ電線のケーブルにおける優れた設計・製造技術とも相俟って、定評のある柔軟かつ機械的強度に優れたケーブルや、基礎・基本的な工学技術に於いて同業他社を凌駕する技術情報の蓄積を活かして、同業他社製品と差別化した付加価値の高い製品作りをめざしている。

そのため同社製品は日本国内のメジャーレコーディングスタジオはもとより、米国においてもシェアを確保し、既に著名なスタジオ、ハリウッド、放送局等でも大量に採用されている。



同社ではこのような高度な技術を活かし、本年のNABにおいても、イーサネットケーブル、BNCコネクタ付き同軸ケーブル、110Ω AES/EBU デジタルオーディオ・マルチケーブル、吊りマイクケーブル、0.226mm² ステレオマイクケーブル、高解像度チューブ・マイクロフォン・ケーブルなどのオリジナル製品を紹介した。

MOGAMI MICROPHONE CABLE

モガミ マイク・ケーブル

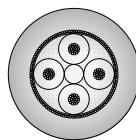
HIGH TENSION AERIAL MIC. CABLES

吊りマイクケーブル

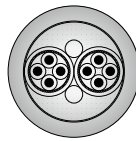
モノラル版には切断荷重 830N のステンレス・ワイヤロープを1 本、ステレオ版には2 本(計 1,660N)を加えた吊りマイクケーブルです。

広範囲に利用できるように総てカッド(4芯シールド)構造に設計されています。

Part No.3177
(MONAURAL)



Part No.3178
(STEREO)



お問い合わせ

エムアイティー株式会社

E-MAIL : mit@mogami.com

PHONE : (03)3439-3755

URL : http://www.mogami.com

Vitec Group

同社グループでは、三脚関連製品（三脚・フルードヘッド・ペダスタル・各種アクセサリ）の Vinten, Sachtler, OConnor, Manfrotto などのブランドを中心として、日本でも発売を開始した「Flowtech」を広いスペースにてPR。

また、LED ビデオライト関連製品（LED ライト・各種アクセサリ）は Litepaneles、業務用バッテリー関連製品（リチウムイオンバッテリー・充電器・各種アクセサリ）は Anton/Bauer、プロンプター関連製品（テレプロンプター・スピーチプロンプター・各種アクセサリ）は Autoscript, Autocue、ワイヤレス伝送の Teradek などの従来からの各種ブランドのほか、昨年からのグループの傘下となった JOBY や Lowepro ブランドの製品なども一堂に集結し、各ブランドの様々な新製品を出展した。

■Flowtech

Vinten と Sachtler の次世代モデルとして登場した製品で、「革命的な三脚」とも呼ばれている。基本的な仕様や外観は共通であるものの、Vinten はブラック、Sachtler はレッド/ブラックのカラーリングとなっている。機能面での特徴として、まず高さ調節レバーの位置変更が挙げられ、これにより高くも低くも素早くセットすることが可能となった。Flowtech75 では、カーボンファイバーで作られた75mm のボール径を採用しており、従来の三脚の丸い足とは様変わりしている。（写真①）また、各脚の上部に備わるクイックリリースブレーキ構造によって瞬時に高さ調整が可能で、20 度、46 度、72 度の開脚ロック機構によって低位置での設置も可能となっていることなども挙げられる。

Flowtech75 ではオプションのミッドス

プレッダーやフロアスプレッダーを取り外すと、26 cm まで低くなり、逆に最高は157cm まで高くなるため、汎用性が高く多用途な構造である。また他のテレスコピック三脚と同様、脚の上部にブレーキがあり、異なる高さの調整を可能にしている。（写真②）

そのほか特徴として挙げられるのは、軽量かつ閉脚時に持ち運びしやすい脚部の断面形状。閉脚時はマグネットによるロック。クイックリリース可能な脚先端機構。

3 x 3/8" ネジによって各種アタッチメントと接続が可能。排水構造によって汚水の侵入にも対応する構造。極低温でも操作可能。3 万回の開脚と150 万回のロック動作でのテストをクリアするなど、様々な特徴をもつ。

■Litepaneles Gemini (日本での発売は未定) IBC2017 にて発表した Litepaneles の新製品「Gemini」は、屋内はもちろん屋外でも使用できるスリムで多目的な照明器具。赤・緑・青色LED と昼光色とタングステン色のLED を搭載し、325 ワットのソフトライティングが可能な 2 x 1 の縦横比の照明器具である。

CCT モードでは、緑色をプラス/マイナスして細かくコントロールすることにより、既存の光源との調整を行い、希望の色温度を得ることができる。明暗の調光中に色温度が変化するというようなことがなく、シャッタースピードやフレームレートに関係なくフリッカーは全く発生しない。



各ブランドごとにブースが設けられた



「Flowtech75」のヴィンテンとザハトラー双方の展示スペース

ライトは、さまざまな方法で使用することができる。CCT モード（色相温度）では、加減できる緑のバイアス光を調整することにより、バイカラーで2700K ~6000K で調整が可能。またHSI モードでは、独立した輝度と彩度で、360 度のカラーホイールによる完全なカラーコントロールができる。Gel モードでは、さらに Lee 社と Rosco 社のゲルフィルターを使って、完全にカスタマイズすることができる。新たに搭載されたエフェクトモードによって炎やサイレンなどの効果を再現した機能が追加された。

■Manfrotto Nitrotech N8

昨年の NAB で発表し、注目を浴びた製品で、従来のヘッドはスプリングをカウンターバランス機構に採用していたが、同製品では窒素充填のシリンダーを採用することによりさらにスムーズでバランス調節も無段階で行うことが可能となり、8Kg までのカウンターバランスに対応している。



《Flowtech75 仕様》素材：カーボンファイバー／脚段数：2段／重量：2.9kg／最大耐荷重：20kg／全伸高：153cm／最低高：26cm／格納高：68cm



Litepanels LED ライト「GEMINI」



Manfrotto「Nitrotech N8」

グラスバレー

グラスバレーは NAB 2018 において、HDR、クラウド、IP に関する展示をおこない、ライブプロダクション、ニュース、コンテンツデリバリーの各カテゴリーにおける「Content Your Way」を実現するための各種ソリューションを展示。本展で一番の注目は、「GV K-Frame X」の発表と、それに組み合わせた「Kayenne」の展示である。「GV K-Frame X」はフル IP I/O のビデオスイッチャー用プロダクションエンジンで、4K で最大192×96 の IP I/O および 3G 相当で 9M/E を装備し、4K 9M/E や 25GbE SFP にも対応予定。これにより、Kayenne/Karrera/GV Korona といった既存のすべてのコントロールパネルとの接続が可能で、操作感はそのままだにフル IP ライブプロダクションシステムが構築可能である。4K で最大192 イン×96 アウトのプロダクションスイッチャーの実現により、カメラからスイッチャー、マルチビューワーを含めてすべて IP でライブ制作システムが組めるようになる。

また、ニュース制作の分野においては、ロー

カルニュースの制作からストリームによる時差配信をワンマンオペレーションで出来る「Ignite」がSAM やソニーなどのスイッチャーにも対応し、より機能が拡張されたとの発表があった。一方、ビデオプロダクション & コンテンツマネージメントシステム「GV STRATUS」は v6.0 となり、EDIUS 9 や EDIUS の技術を継承した GVRE Transcoder とのインテグレーション、SNS への直接公開、モバイルから PC までの OS をサポートした Web クラウド、サードパーティストレージに対応したゲートウェイ等の新機能が付加された。それらのソリューションは、SDI/IP、4K/UHD、HDR や WCG などに対応した最新製品群により構成され、コンテンツが必要とされる場所・デバイス・時間といった要件に合わせた最適な制作・コントロール・配信環境を実現する。

さらに、本年 2 月に Belden が買収して統合した従来の SAM の製品である4K/8K ハイエンド編集システム「Rio」にて、EDIUS がオフラインエディターとして使用可能



になり、プロジェクトファイルの互換性をとることを発表。統合された Rio が今後はどうなるのかも話題となっていた。元々 Rio は、高品質カラー& フィニッシングシステムとして誕生しており、今後も開発は引き続き行う。そのため EDIUS と Rio は兄弟のような関係となり、AAF などの形式でプロジェクトベースの連携が可能にし、EDIUS で編集をしたプロジェクトを Rio でフィニッシングできるようにする。例えば、EDIUS はオフラインで使って、最後のフィニッシングを Rio で味付けして完パケというワークフローが可能となるとの事である。その他、これまでの EDIUS のレスポンスと変わらないクラウド対応の EDIUS を紹介。新しい EDIUS Cloud は Amazon の AWS 環境にて iPhone からアップされた映像が即時に編集できるデモなども行われた。



「GV K-Frame X」



「GV STRATUS」のPC 用画面



「GV STRATUS」のモバイル用画面

soundzone

快適な室内環境をクリエイトする 3,000件超の実績、防音工事の専門会社



【音響・防音工事】個人・集合住宅向け防音室 オーダーメイドのピアノ室・ドラム室・その他楽器練習室、ホームシアター、オーディオルーム、カラオケルーム
スタジオ工事 ライブハウス、レコーディングスタジオ、リハーサルスタジオ、ミニシアター、映画館、音楽ホール、ダンススタジオ

【計量証明事業所】音圧レベル、音の測定 【環境騒音対策工事】工場・一般家庭の防音対策 工場内騒音、近隣騒音対策、KSA音響調整パネル、無響室等の実験室

【一般内装工事／商業施設工事】設計・施工・建築設計コンサルティング／一般住宅、マンション一括リフォーム／飲食店、物販店、クラブ等

【医療施設工事】医療施設の設計・施工及び開業コンサルティング シールドルーム、聴力検査室等

お問い合わせ：03-5795-1215

環境スペース株式会社

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿3丁目28-12
<https://www.soundzone.jp/>

ネットワークエレクトロニクスジャパン取り扱い製品各社



■Nevion

今年のテーマは「We can talk about real cases!」としてこれまで IP メディアシステムを納入し放送・伝送・プロダクションの新しいアプローチを成功させた各ユーザー事例をもとに製品をアピールしていた。

特にBT (ブリティッシュテレコム、英国)の世界最大級と言える IP メディアコンテンツリビューションの成功を各製品とその役割についてデモ及び説明では、例としてBT スポーツが担当している英国プレミアリーグの20ある各スタジアムから 40 ストリーム/スタジアムのソースをルーティングできるIP 設備がロンドン BT タワーの一部に収納されている。またリオオリンピックにおける CBC 南米カナダ間IP 伝送は遠距離リモートプロダクションの可能性とコスト削減をアピール、昨年末から本格稼働して



IP ルーティング用新製品 CP-40MEC コントロールパネル背面にプログラマブル GPIO も装備している

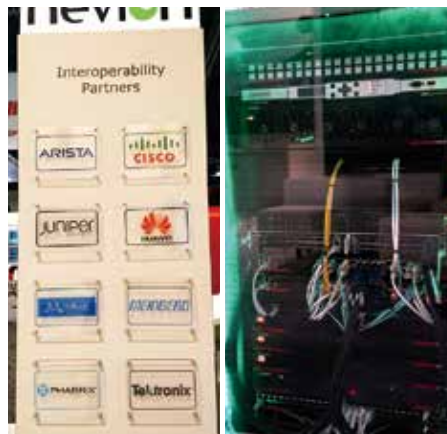
いるノルウェーTV2 の東西沿岸にある局間における大規模リモートスタジオならびにメディアネットワークでは全てのソース、データを一元管理できるIP ネットワークとなっているとのことであった。

また毎年 Hard Rock café で展示会前日に行われる Nevion プリNAB イベントでは、毎年ゲストスピーカーを招いてプレゼンテーションを行うが今年はBBC の Ross Kemp 氏 (head of connectivity architecture)を招いて4000 ポートに及び大規模IP メディア網の構築と Nevion が担う部分に関しての重要性を説明した。これはNevion 社が誇るリアル SDN オーケストレーション技術によりLANとWANの境界を無くし大規模 IP ルーティングシステムを構築可能であることの良い証明になっていると言える。

ハードウェア製品で参考出品されていた CP-40MEC プログラマブルコントロールパネルがあった。IP ルーティングとベースバンドルーティング両方のシステムに使用できるハードウェアベースのコントロールパネルである。

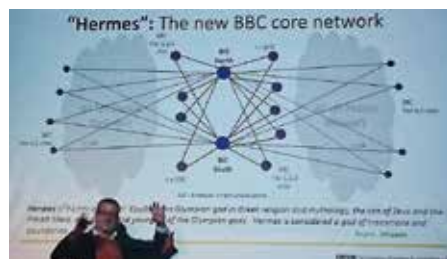
恒例の「IP Showase」に多くの製品を提供し40 各社間でSMPTE ST 2110 と AMWA、NMOS に関する相互運用制を検証。

また、Nevionから講演者としてAndy Rayner 氏 (Chief Technologist, Nevion UK)、Luann Linnebur 氏 (Director of Business Development/Nevion USA)、Ole-Johan



増加中のサポート Ethernet スイッチベンダー

PTP シンクを取り入れた IP 機器機材



NevionプリNABショーではBBCよりゲストスピーカーを招待しBBC IPメディア網とNevionの役割を説明

Skogheim 氏 (元 TV2 lead architect, project manager, 現Nevion協力 SI)らが SMPTE 2110も最適化伝送手段と画音同期に関して、その他具体的大規模プロジェクト案件におけるLAN/WAN ネットワークの構築に関してのプレゼンテーションを行った。

さらに、AWS Elemental では、Virtuoso (バーチュオース、Nevion IP gateway)をクラウド上で運用したTR-01 compliant video ストリームのデモも行っていた。

nevision Media Gateway to IP

ビデオプロダクション、ビデオ長距離中継伝送、放送スタジオの IP 化ゲートウェイ各種インターフェースを取り揃えております。



Virtuoso シリーズ

3GHD-SDI 非圧縮、JPEG2000、TICO、ASI、H.264/AVC
Media Gateway, IP Aggregation, Monitor...

製造元:
Nevion AS



非圧縮 16 HD-SDI I/O、SMPTE2022-6 IP コーデック
+ eMerge 10GBE スイッチ・40 GBE データ・アグリゲーション、SMPTE2022-7 SIPS リダンダントバス構成

輸入販売元:

ネットワークエレクトロニクスジャパン 株式会社 ●TEL:03-5542-3260 ●http://www.network-electronics.co.jp

Flashlink IP シリーズ

非圧縮マルチプレックス SDI

AES 67 IP オーディオ



■Volicon/Verizon Digital Media Service

最新 Ver.9 にアップデートした Observer (オブザーバー) 法定同録サーバーソフトウェアをデモ展示。MPEG2/H.264 を搭載し長期間の同録と同時に web インターフェイスによるクリップ編集共有機能やマルチチャンネルモニタリング機能とソーシャルメディア向けや OTT、ストリーミングサービスとの連携が強化された。アプリケーションの追加で同録、モニター、レポート、ファイル変換・転送が可能となり、データ解析など多彩な機能を誇る。



Volicon/Verizon ブース



OBSERVER デモスタンド

■Bridge Technologies

IP ストリーム監視モニターシステムではパイオニア的なベンダーである Bridge Technologies は、オールインワンポータブルタイプの IP/TS/RF プローブ Nomad (ノマド) から IP ビデオ・コンテンツ・エクストラクター、アーカイブモニターや多様な情報を表示するビデオウォールビューアーやアップグレードした SMPTE2022-6/7 非圧縮 IP ビデオの監視モニターアラライザを展示した。



Bridge Technologies ブース



ノマド IP プローブ展示セッション

■Stream Labs

SDI/ASI/IP ビデオ・オーディオ・ストリーミング対応マルチビューアーソフトウェア MultiScreen と記録ソフトウェアの MultiREC を中心に展示。また各サイトで取得したビデオ動画と品質情報を web ブラウザでリモート監視モニターできるビジュアライザーと web サーバーを一緒にした STREAM Multiprobe を展示していた。



StreamLabs ブース風景



IP 複合マルチビューアー監視モニター

■Torque Video System

わかりやすい Web インターフェースとして好評を得ていた ASI のモニター監視と法定同録が可能な DVmon にモニター専用機としてコンパクトサイズの XS が加わった。小さいながら ASI 入力と IP ストリーム入力にも対応しており利用範囲が広がったことをアピールした。



DVmon XS



わかりやすい DVmon web インターフェース




「法定同録だけじゃもったいない」

Volicon Observer® MIP(Media Intelligence Platform®) なら、法定同録、マルチ画面モニタリング、ファイル品質チェック、アーカイブ中でもクリップ編集が可能、web、SNS 等へのファイル切り出しアップロード作業を共有し作業を簡素化できます



Capture

Share

Review

Comply

Monitor

製造元:
Verizon digital media services

輸入販売元:
ネットワークエレクトロニクスジャパン 株式会社 ●TEL:03-5542-3260 ●http://www.network-electronics.co.jp